

( 公社 ) 東京ビルメンテナンス協会  
災害発生報告集計分析報告

平成 27 年 4 月 6 日

東京美装興業株式会社

技術部 正田浩三

## 東京ビルメンテナンス協会災害集計報告書

### 1. 目的

当協会員企業から毎月災害報告を集計している。この災害報告書は、H24年6月～H26年8月まで337件の報告である。今回、集計した災害報告を分析し、今後の災害防止対策の基礎資料につなげることが目的である。また、各地区協会のデータは、全国ビルメンテナンス協会へ集められており、今後の全国ビルメンテナンス協会の多くの他地区災害データの分析を行うことでより精度の高い分析が可能であると考え。災害防止には、災害に関する具体的なデータに基づいた災害情報と対策集が必要である。また、今後の集計用紙の改善等の基礎資料となると考える。そこで、今回の分析を行い、現状の実態を把握することを目的とする。

### 2. 災害分析結果

#### (1) 主な災害内容

##### 1) 業種別災害率

337件の業務別災害割合の内訳を図1に示す。清掃業務が54%と半数を占めている。次に設備業務22%、その他18%、警備6%の順であった。

業務別の災害は、業務災害と通勤災害に分かれる。結果を図2に示す。清掃業務は、182件であり、業務災害は、131件(73%)、通勤災害51件(27%)であった。設備業務は、業務災害66件(90%)、通勤災害7件(10%)であった。警備業務は、業務災害13件(62%)、通勤災害8件(38%)である。その他は、業務災害47件(92%)、通勤災害14件(8%)であった。

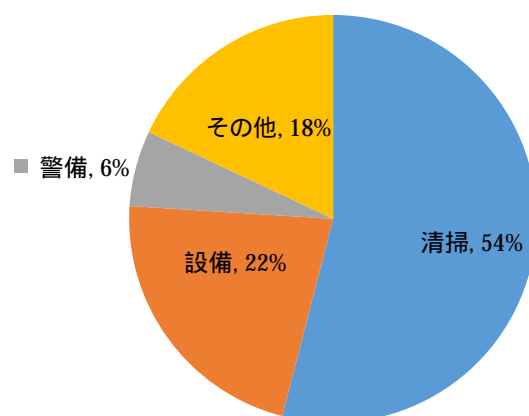


図1 業務別災害

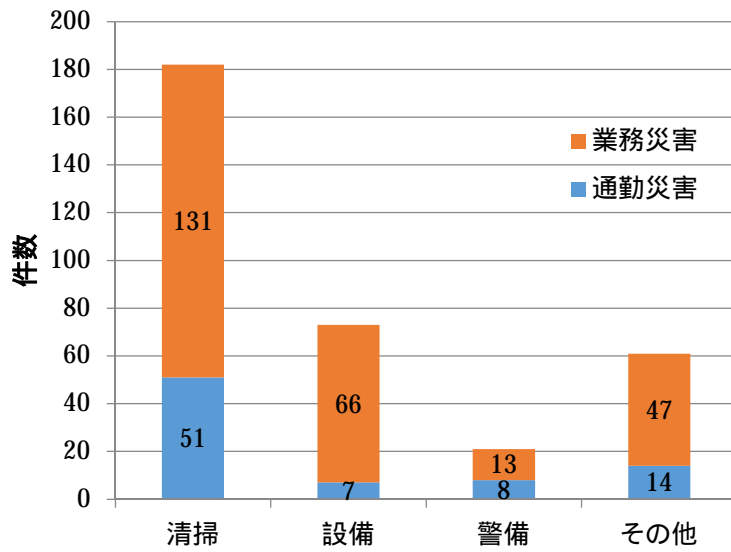


図2 業務・通勤別災害内容

2) 被災者の男女内訳

業種別の男女件数を図3に示す。清掃業務は、女性129人(67%)、男性53人(33%)である。設備業務・警備業務は、全員男性であった。その他では、男性32人(53%)、女性28人(47%)であった。

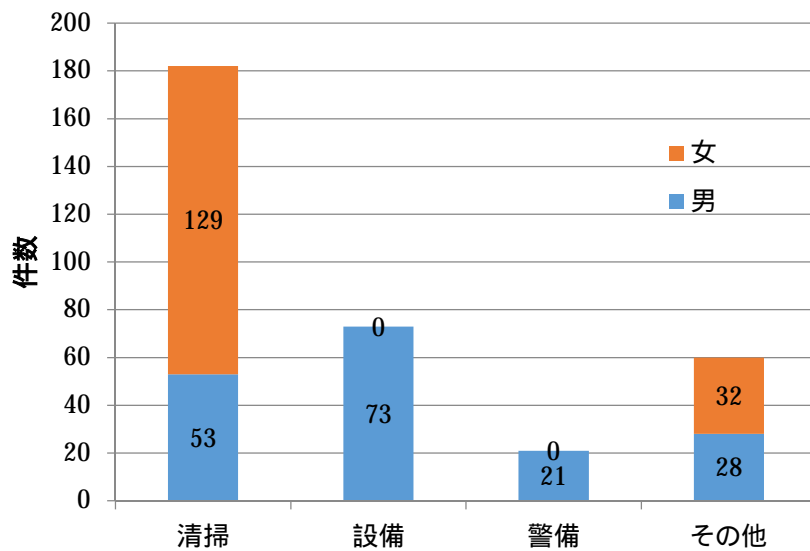


図3 業種別の男女内訳

### 3) 被災者の年齢分布

被災者の全体の年齢分布を図4に示す。336名の報告の内訳は、60～64歳が最も多く70名(21%)であり、次に65～69歳55名(16%)、55～59歳36名(11%)であり、次に、40～44歳、45～49歳、50～54歳が続いた。

業務別の被災者の年齢分布を図5に示す。清掃業務は、65～69歳が最も多く(45名)、60～64歳、55～59歳、70～74歳の順であった。設備業務は55～59歳が最も多く、60～64歳、50～54歳、45～49歳の順であった。警備業務は、人数が少ないが、5人・4人と広く分布している。その他は、60～64歳が最も多く、次に45～49歳、55～59歳の順であった。

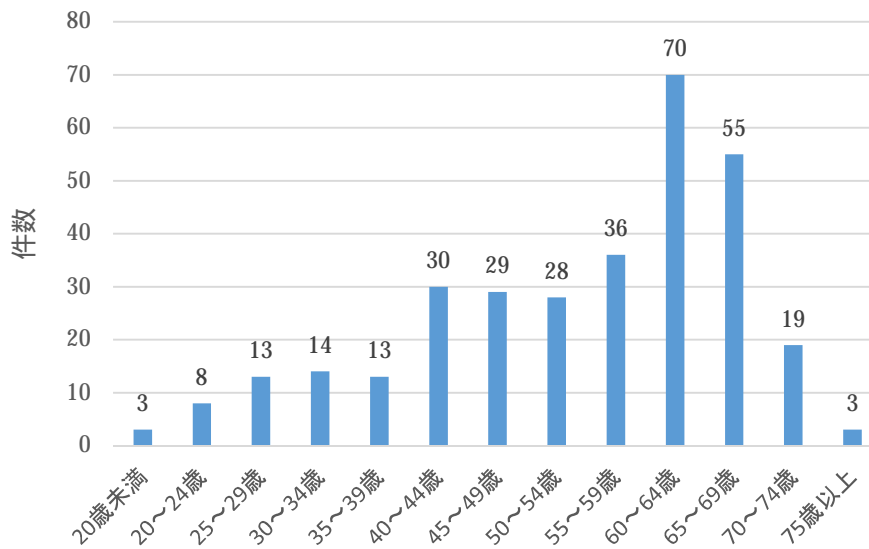


図4 被災者の年齢分布

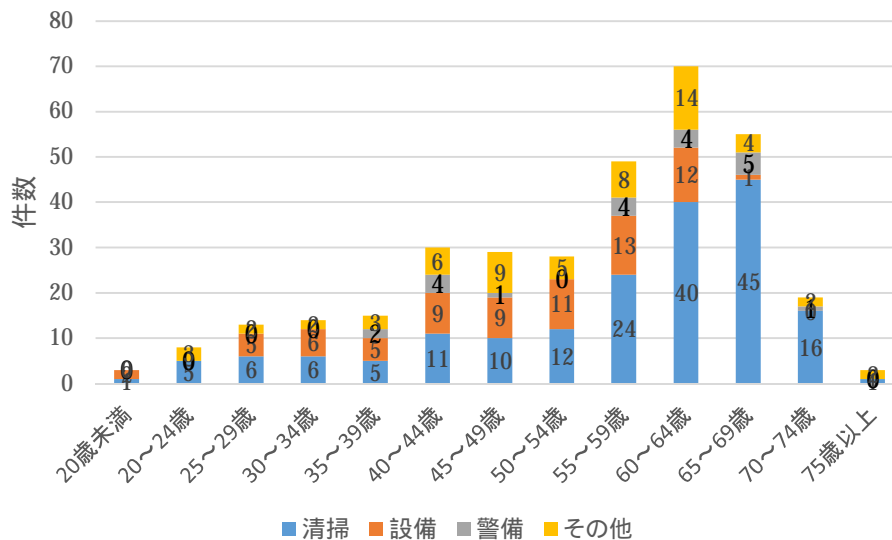


図5 業務別・被災者の年齢分布

#### 4) 被災者の勤続年数

被災者の勤続年数を図6に示す。全体では、勤続年数が5～9年が、70人(21%)で最も多くなった。5年間であり、年間14人となる。次に1年未満68人(20%)が多く、1年目、2年目、3年目4年目と減少傾向であった。1年未満の災害が多い結果となった。

業務別の被災者の勤続年数を図7に示す。清掃業務は、1年未満が42名(23%)で最も多く、次に1年目23名(13%)、2年目19名(10%)の順であった。

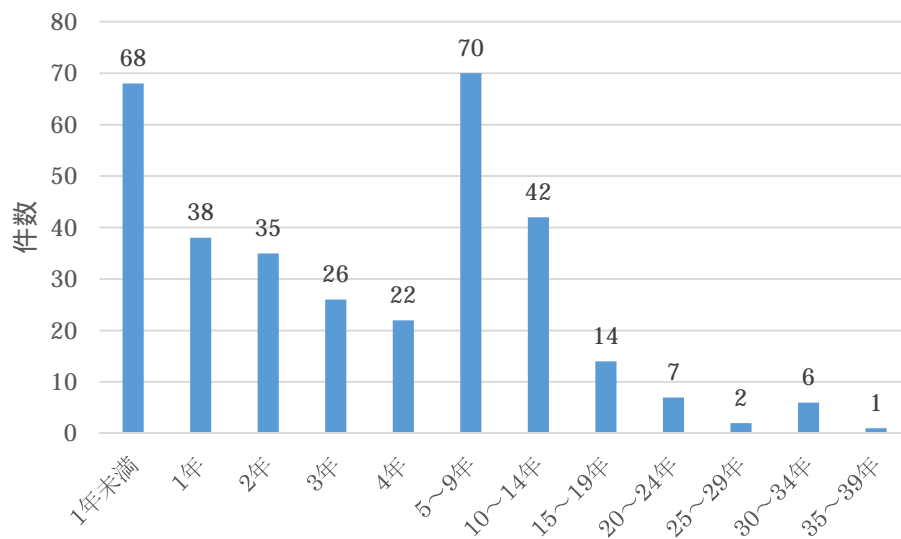


図6 被災者の勤続年数

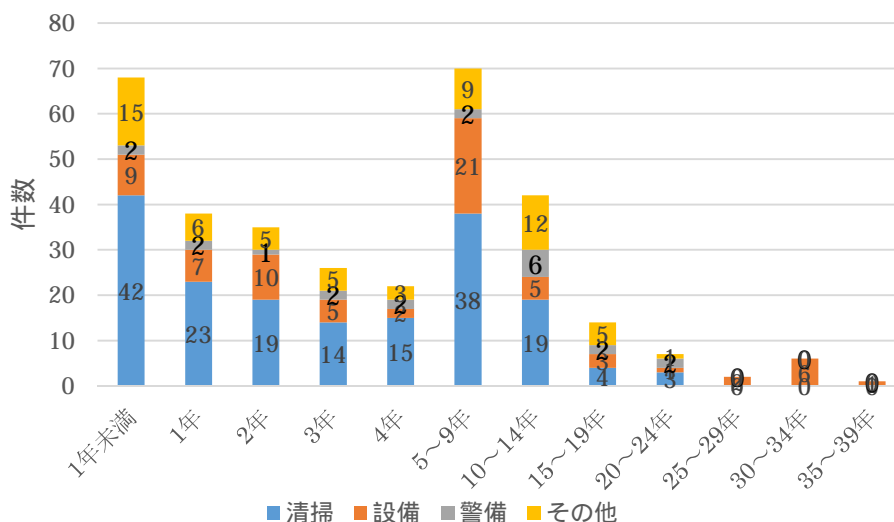


図7 業務別・被災者の勤続年数

### 5) 災害要因

災害全体の災害要因を図8に示す。最も多かったのは、安全確認の不足106件(31%)であり、次に足元確認不足36件(11%)、不注意35件(10%)、保護具の未着用30件(9%)の順であった。

業務別の災害要因を図9に示す。清掃業務では、安全確認不足32件(18%)が最も多く、次に足元確認不足25件(7%)、不注意・保護具の未着用18件(5%)の順であった。設備業務においては、安全確認不足12件(16%)が最も多く、次に、不注意・保護具の未着用10件(14%)の順であった。警備業務は、安全確認不足5件(24%)、不注意3件(14%)であった。その他では、安全確認不足22件(37%)が最も多く、次に、凍結7件(12%)の順であった。

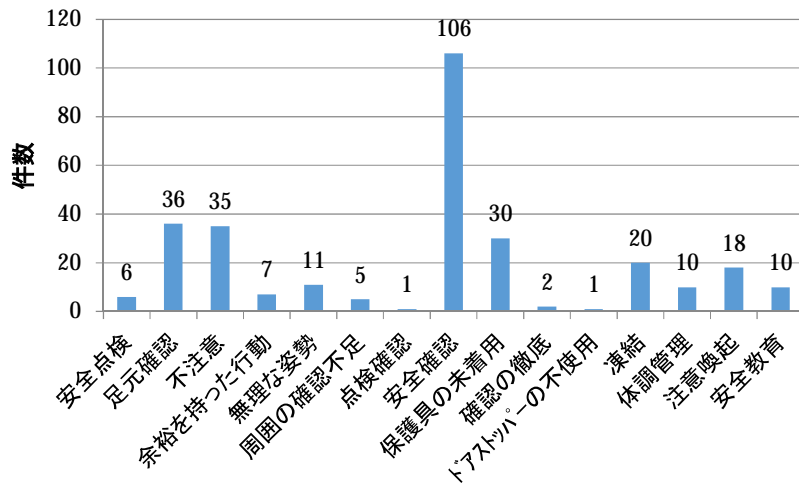


図8 災害要因

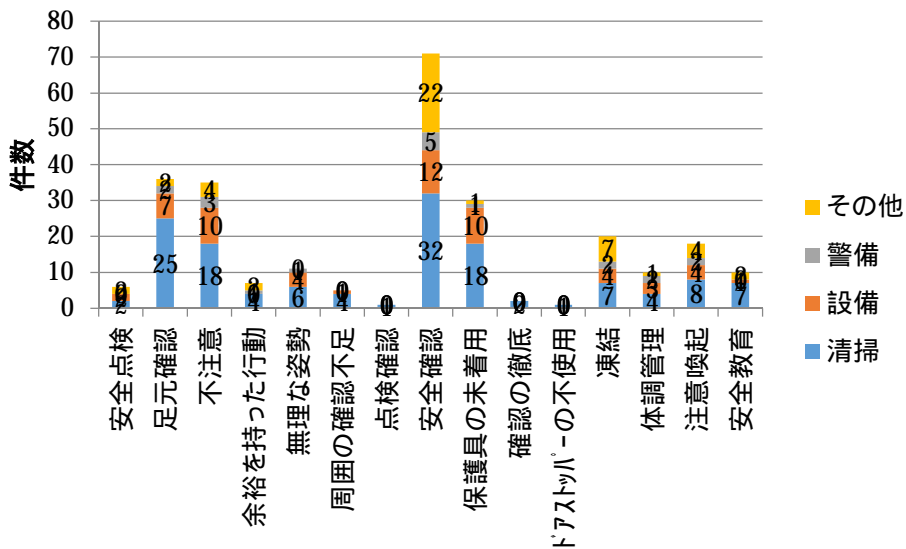


図9 業務別の災害要因

## 6) 災害種別

災害種別の内容を図 10 に示す。転倒災害 104 件 (31%) で最も多く、次に裂傷 45 件 (13%)、打撲 40 件 (12%) の順であった。

業種別の災害種別の内訳を図 11 に示す。清掃業務では、転倒 71 件 (39%) で最も多く、次に打撲 28 件 (15%)、刺傷 19 件 (10%)、捻挫・転落 11 件 (6%) の順であった。設備業務では、転倒 17 件 (23%) で最も多く、次に、裂傷 15 件 (21%)、転落 8 件 (11%) の順であった。警備業務は、裂傷 13 件 (62%)、捻挫 8 件 (38%) の結果であった。その他は、転倒 16 件 (27%) が最も多く、次に、裂傷・刺傷・転落 7 件 (12%) の順であった。

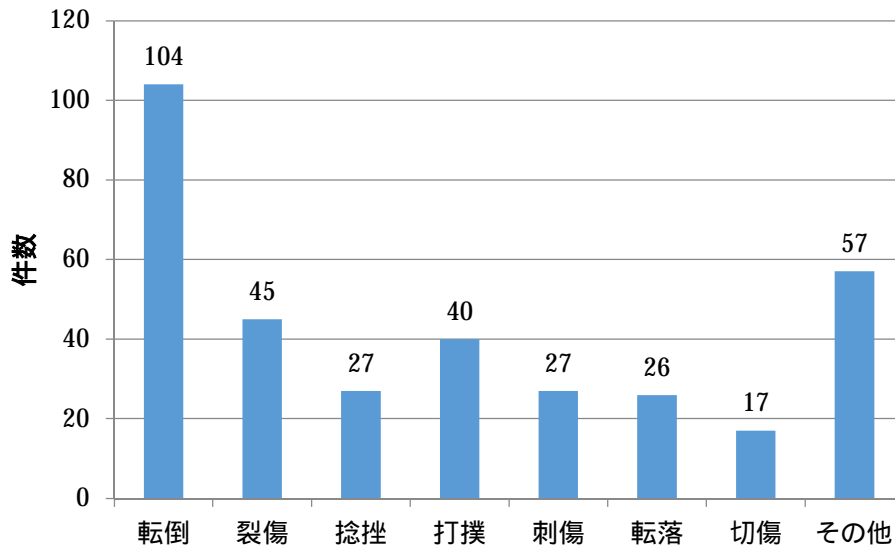


図 10 災害種別

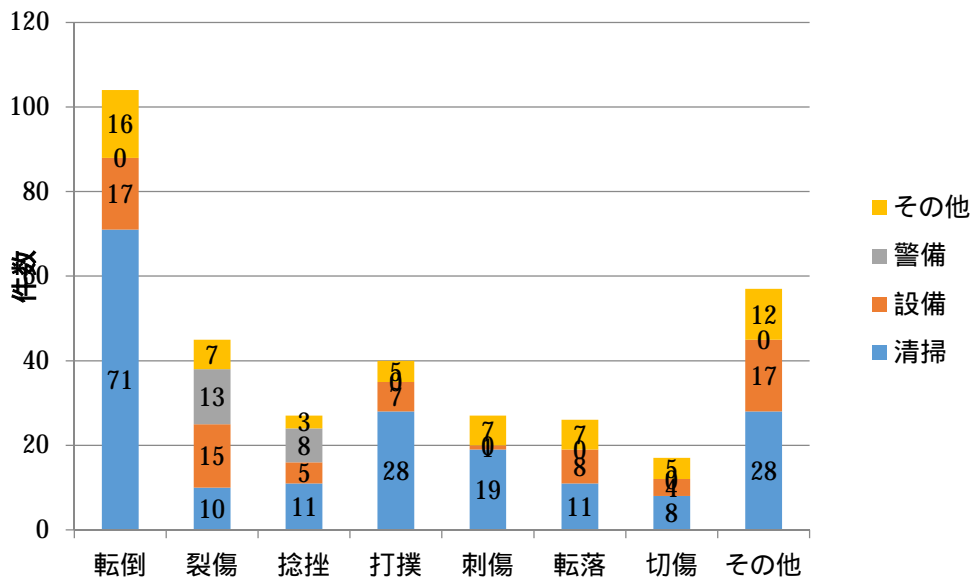


図 11 業務別の災害種別

## 7) 休業日数

災害における休業日数の内訳を図12に示す。休業日数なしが154件(45%)で最も多く、次に、休業4日以上56件(17%)、休業31日以上54件(16%)の順であった。

業種別の休業日数を図13に示す。清掃業務では、休業なし70件(38%)で最も多く、次に、休業31日以上39件(21%)、休業4日以上34件(18%)、休業15日以上20件(11%)の順であった。設備業務では、休業なし43件(59%)が最も多く、次に、休業31日以上10件(14%)、休業4日未満・休業4日以上8件(11%)の順であった。警備業務では、休業なし8件(38%)が最も多く、次に、休業15日以上5件(24%)の順であった。その他では、休業なし33件(55%)が最も多く、次に、休業4日以上11件(18%)、休業15日以上9件(15%)の順であった。

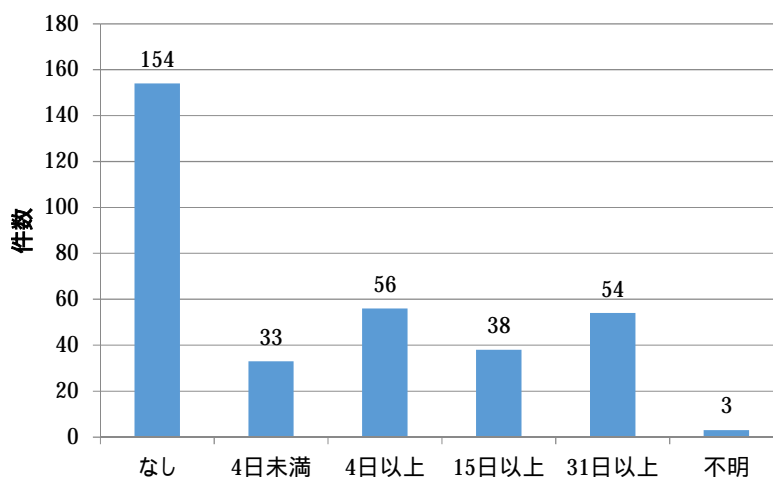


図12 災害の休業日数

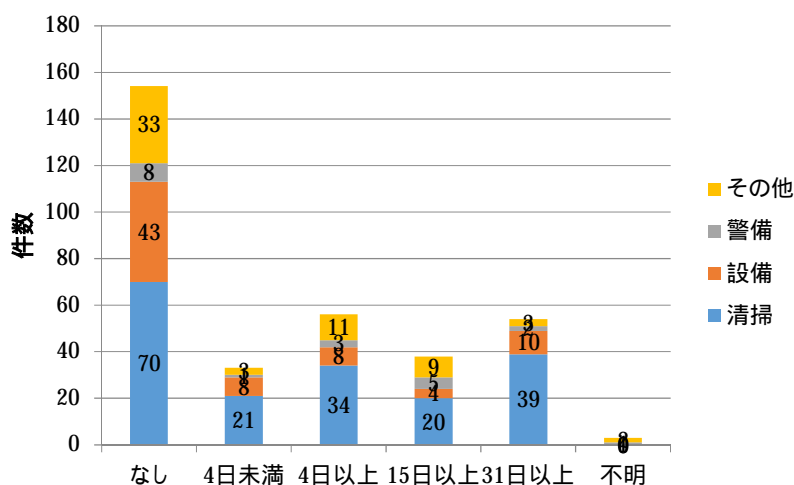


図13 業務別の休業日数の内訳



### 8) 月別の災害数

月別の辞個数を図14に示す。1月から12月における災害数の内訳を図14に示す。7月(44件)、8月(43件)が最も多く、3月(19件)、5月(15件)、10月(20件)、12月(19件)が少ない月となった。

業種別・月別の災害件数を図15に示す。清掃業務では、7月(26件)、8月(27件)が最も多く、5月(5件)が最も少ない月となった。設備管理業務では、4月(12件)が最も多く、3月(2件)、11月(3件)が少ない月であった。警備業務では、6月(6件)が最も多く、3月・4月(0件)、5月・9月・10月・12月(1件)が少ない月であった。その他では、7月(8件)、9月・11月(7件)が多い月であり、4月(2件)、5月(1件)が少ない月であった。

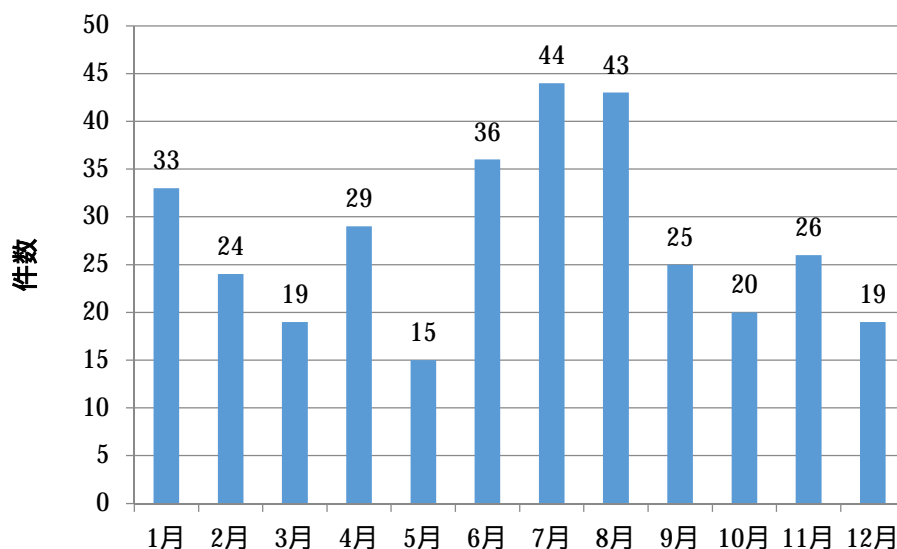


図14 月別の災害件数

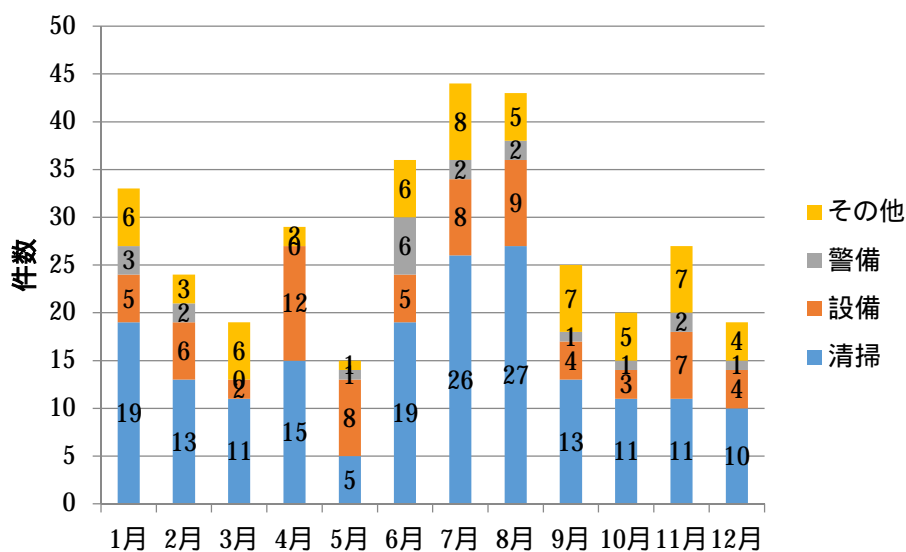


図15 業種別・月別の災害件数の内訳

### 9) 曜日別の災害数

曜日別の災害数を図 16 に示す。月曜から金曜までは、50～60 件で推移している。土曜・日曜は、23～29 件で少ない傾向を示した。

業務別・曜日別の災害件数を図 17 に示す。清掃業務では、水曜（36 件）・木曜（39 件）が多い結果となり、土曜（13 件）・日曜（10 件）が少ない傾向を示した。設備業務では、火曜・木曜（15 件）が多い結果となり、土曜（13 件）・日曜（10 件）が少ない傾向を示した。警備業務では、月曜・金曜（6 件）が多い結果であり、水曜・木曜・土曜（1 件）、日曜（2 件）で、少ない傾向を示した。その他では、火曜（12 件）水曜（11 件）が多い結果であり、木曜日（2 件）が少ない傾向を示した。

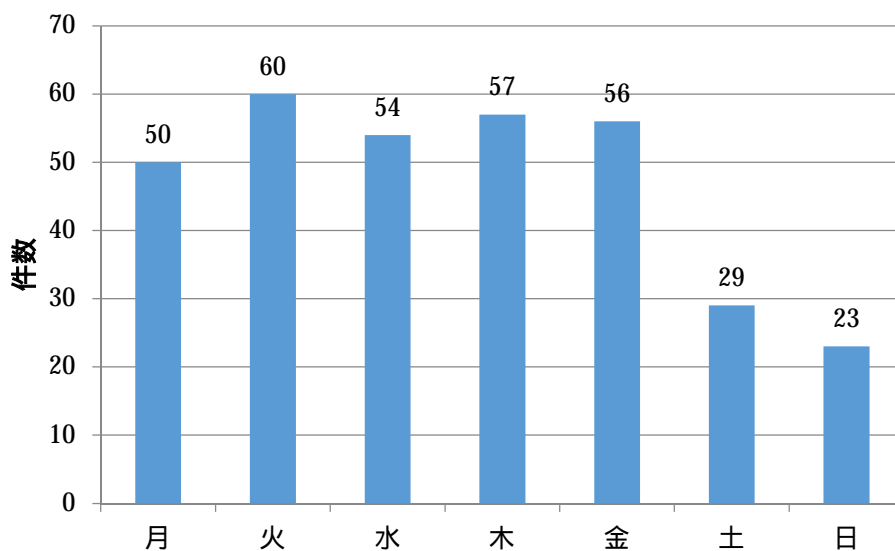


図 16 曜日別の災害件数

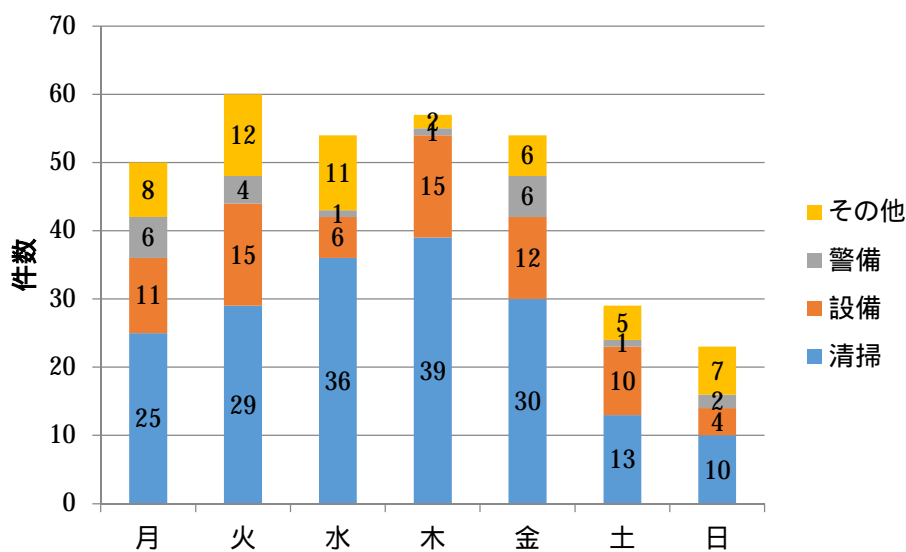


図 17 業務別・曜日別の災害件数の内訳

### 3.まとめ

東京ビルメンテナンス協会が集計した災害例 337 件を単純分析した。業務別では、清掃業務が半数以上を占めた。従業員数が多いことによると考える。年齢では、60~64 歳の災害が最も多く、勤続年数では、1 年未満の災害が多い傾向を示した。月別では、7 月・8 月が最も多く、5 月が最も少なかった。曜日別では、土曜・日曜の災害が少ない傾向を示した。今後、災害要因、災害起因物の特定については、災害内容を熟読し、原因分析を行う必要がある。また、作業内容の整理により類似災害を特定する必要がある。尚、災害と関係する要因の相関分析を行うことでより原因の精度を上げることができると思う。